

『集史』第2巻「世界史」校訂の諸問題
モハンマド・ロウシャンの校訂本に対する批判的検討を中心に

大塚 修

Some Problems on Editing the Second Volume of the *Jāmi' al-Tawārikh*
Critical Review on Muḥammad Rawshan's Editions

OTSUKA, Osamu

Jāmi' al-Tawārikh written by the Ilkhanid statesman Rashīd al-Dīn (d. 1318) covers not only the history of Iran but also that of India, China, Europe, and other countries, and has been highly admired as the 'first world history' among modern scholars. Although the first volume of this work has been well-studied, the second volume had not even been edited in its entirety until recently. In 2013, the last unedited chapter, named "History of Iran and Islam," was edited by the Iranian philologist Muḥammad Rawshan and apparently all chapters of the *Jāmi' al-Tawārikh* became available for reference. However, unfortunately, we cannot consider Rawshan's edition of "History of Iran and Islam" of the *Jāmi' al-Tawārikh* to be exactly the same as the text of the original *Jāmi' al-Tawārikh*. Rawshan's edition was based not on the manuscript of the *Jāmi' al-Tawārikh*, but on the manuscript of the revised edition of the *Jāmi' al-Tawārikh* (Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1653) by the Timurid intellectual Ḥāfiẓ-i Abrū (d. 1430) and his *Majmū'a* (Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Dāmād Ibrāhīm Paşa 919). It should be noted that the text in the first part of the revised edition of the *Jāmi' al-Tawārikh* is completely different from the text of the *Jāmi' al-Tawārikh*, and the first part of the *Majmū'a* is the text of Samanid intellectual Bal'amī (d. ca. 997)'s *Tārikh-nāma*.

As can be seen from the above-mentioned problem with Rawshan's edition, there is still a lack of basic understanding about the manuscripts of the second volume of the *Jāmi' al-Tawārikh* in academic circles. To solve this problem, I will present a new bibliography of seventy-three surviving manuscripts of the

Keywords: *Jāmi' al-Tawārikh*, Rashīd al-Dīn, Muḥammad Rawshan, Codicology, Persianate Societies

キーワード: 『集史』, ラシード・アッディーン, モハンマド・ロウシャン, 写本研究, ペルシア語文化圏

* 本稿は、平和中島財団日本人留学生奨学金、日本学術振興会科学研究費補助金・特別研究員奨励費(課題番号 12J10596)、日本学術振興会科学研究費補助金・研究活動スタート支援(課題番号 26884016)による研究成果の一部である。また、スィヤークト体の数字の読み方については、テヘラン大学のエマードッディーン・シェイホルホキャマーイー氏に確認して頂いた。記して謝意を表す。

original *Jāmi' al-Tawārikh*, which are distinguishable from those of the revised edition of the *Jāmi' al-Tawārikh*. Then, finally, I will provide a key to make a true critical edition of the second volume of the *Jāmi' al-Tawārikh*.

- | | |
|--|--|
| <p>I. はじめに</p> <p>II. 『集史』第2巻「世界史」の諸校訂</p> <p>1. 第1巻「モンゴル史」研究の活況と第2巻「世界史」研究の停滞</p> <p>2. ロウシャン以前の第2巻「世界史」の校訂本・手稿本ファクシミリ</p> <p>3. ロウシャンによる第2巻「世界史」の校訂本</p> | <p>III. 『集史』第2巻「世界史」「イラン・イスラーム史」のロウシャン校訂本</p> <p>1. 底本の選定における問題点</p> <p>2. 対校本の選定における問題点</p> <p>3. 第2巻「世界史」の手稿本として利用可能な箇所</p> <p>4. 校訂テキストと手稿本の対応関係</p> <p>IV. 『集史』第2巻「世界史」校訂本作成のための指針</p> |
|--|--|

I. はじめに

2013年、ついに「その時」が訪れたかのように思われた。この年、ペルシア語手稿本校訂の権威ロウシャン M. Rawshan の手により、ラシード・アッディーン (1318 没) 著『集史 (イラン・イスラーム史)』の校訂本 (全3巻) が出版された (Rashīd al-Dīn Faḡl Allāh Hamadāni, *Jāmi' al-Tawārikh (Tārikh-i Īrān wa Islām)*, ed. by M. Rawshan, 3 vols., Tehran, 1392kh)。これにより、1373kh/1994/5年にアルボルズ出版社から『集史』第1巻「モンゴル史」の校訂本 (全4巻) を出版して以来 (Rashīd al-Dīn Faḡl Allāh Hamadāni, *Jāmi' al-Tawārikh*, ed. by M. Rawshan & M. Mūsawī, 4 vols., Tehran, 1373kh), ミーラーセ・マクトゥーブ出版社から『集史』第2巻「世界史」の各章の部分校訂を刊行し続けてきたロウシャンによる、『集史』全テキストの校訂作業が終わりを告げた。

『集史』とは、イルハーン朝 (1256-1357) 8代君主オルジェイト (在位 1304-16) に献呈されたペルシア語普遍史書で、「モンゴル史」、「世界史」、「世界地誌」の3巻からなる (後に「系図集」が増補され全4巻に)。「世界地誌」の存在は現在確認されていないものの、第1巻「モンゴル史」はモンゴル帝国史研究に必要な不可欠な一次史料として、第2巻「世界史」は中国、インド、ヨーロッパまでを対象とする史上初の世界史として高く評価されてきた (大塚 2014: 25)。ところが、校訂本の刊行は進まず、100年以上前からその構想が暖められてきたにもかかわらず (Browne 1908), 第1巻に比べて同時代史料としての価値を持たない第2巻に関しては、長い間、未刊行の部分が残されたままであった。このような中、およそ30年にも及ぶ歳月を『集史』校訂に費やし¹⁾、合計17冊にも及ぶ『集史』全テキストの校訂を成し遂げたロウシャンの偉業は、モンゴル帝国史研究者のみならず、イラン研究者にとっての100年越

1) 校訂作業は、トルコ語・モンゴル語に造詣が深いムーサヴィー M. Mūsawī の協力を得て、1363kh/1984/5年に開始された。ムーサヴィーの名前は、第2巻「世界史」の諸校訂本では校訂者として紹介されていないが、作業には関与していたようである (Rawshan 1392kh: xix-xx)。

しの宿願の成就を意味するものである²⁾。しかし残念ながら、ロウシャンの『集史』第2巻「世界史」の校訂本には、校訂作業の質を問う以前の、大きな問題点が見られるのもまた事実である。そこで本稿では、まずロウシャンの校訂本を含む、第2巻「世界史」の校訂本作成の歴史を回顧する。そして、これまでの校訂本の問題点を指摘した上で、筆者による手稿本研究の成果を示しながら、第2巻「世界史」を今後一次史料として研究に使用していく際の指針を示したい。

Ⅱ. 『集史』第2巻「世界史」の諸校訂

1. 第1巻「モンゴル史」研究の活況と第2巻「世界史」研究の停滞

『集史』手稿本研究と言えば、日本のモンゴル帝国史研究が世界に誇る研究分野の1つで、一見、これ以上研究する余地など残されていないかのように思われる。ところが、これまで主に研究者の注目を集めてきたのは、第1巻「モンゴル史」であり³⁾、第2巻「世界史」をも含めた作品全体としての文献学的研究の蓄積は、実はさほど多くはない。第2巻「世界史」研究の重要性を説いた白岩一彦も（白岩 1995: 188）、自身で作成した『集史』現存手稿本目録、白岩 2000 の中で、第2巻「世界史」手稿本に関しては十分な調査を行っているようには見受けられない⁴⁾。一方、日本とは異なり、欧米では、第2巻「世界史」の手稿本研究が進んでいると評価されるが（宇野 2011: 45）、そのほとんどは美術史家による写本絵画研究であり⁵⁾、テキストも含めた手稿本そのものに関する、また写本絵画が挿入されていない手稿本に関する文献学的研究は未だ十分であるとは言えない。このように第2巻「世界史」の手稿本を対象とする精緻な文献学的研究が不足しているためか、『集史』という作品の正確な全体像が必ずしも学界に共有されていない、という現実があった⁶⁾。そして、そのような環境下で、校訂本の刊行が進められてきたのである。

2. ロウシャン以前の第2巻「世界史」の校訂本・手稿本ファクシミリ

『集史』第2巻「世界史」は、「イスラーム前史」、「イスラーム史」、「ガズナ朝史」、「セルジューク朝史」、「ホラズムシャー朝史」、「サルグル朝史」、「イスマール派史」、「オグズ史」、「中

-
- 2) イランではイラン太陽暦 1392 年ティール月 10 日 / 2013 年 7 月 1 日に出版披露式典が開催された (<http://mirasmaktoob.ir/fa/news/2201>, 2015 年 12 月 23 日最終閲覧)。
 - 3) 第1巻「モンゴル史」に関しては、本田實信、杉山正明、志茂碩敏、志茂智子、白岩一彦、赤坂恒明、宇野伸浩ら日本のモンゴル帝国史研究者による精緻な文献学的研究の蓄積がある。詳しくは宇野 2011: 44-46 を参照。直近では、「モンゴル史」のテキスト分析に基づく研究書、志茂 2013 が出版されるなど、「モンゴル史」の文献学的研究は未だに衰えを見せない。今後は、これらの研究蓄積に基づいた校訂テキストおよび翻訳の出版が待ち望まれる。
 - 4) 白岩は、第1巻「モンゴル史」全 27 手稿本のうち 17 点を、第1巻「モンゴル史」・第2巻「世界史」合冊本全 7 手稿本のうち 3 点を実見しているのに対し、第2巻「世界史」単独の手稿本に関して実見しているのは、全 29 手稿本のうちわずか 8 点にすぎない。
 - 5) 例えば、Blair 1995。その後、日本でも榎屋 2014: 173-185 という研究が刊行された。
 - 6) 例えば、『イラン大百科』の『集史』という事典項目の中で、10 点以上の第2巻「世界史」の手稿本が紹介されているが (Melville 2008: 463a-463b, 466a)、その中には、『集史』以外の作品の手稿本が 4 点も含まれている (Manchester, John Rylands Library, Ms. 406; Lahore, Punjab University, Ms. 94/25 (この書誌は誤りで正しくは Islamabad, National Library of Pakistan, Ms. 22); St. Petersburg, Institute of Oriental Studies, Ms. E5; Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Dāmād Ibrāhīm Paşa 919)。これらの手稿本の評価については、表 4 および大塚 2015: 274-279 を参照。

表1 ヤーンが参照した手稿本一覧

| 参照手稿本 | a | b | c | d | e | f | g |
|--|---|---|---|---|---|---|---|
| London, Khalili Collection, Ms. 727 (1314/5年書写) 以下 KH727 と略 | × | ◎ | × | ◎ | ◎ | × | ◎ |
| Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1653 (一部 1314年書写) 以下 H1653 と略 | × | × | ○ | ◎ | × | ◎ | × |
| Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1654 (1317年書写) 以下 H1654 と略 | × | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| London, British Library, Ms. Add. 7628 (1433年以前書写) 以下 BL7628 と略 | × | ◎ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Bağdad Köşkü 282 (15世紀前半書写) 以下 BK282 と略 | × | × | ◎ | × | × | × | × |
| Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Ahmet III 2935 (15世紀前半書写) 以下 A2935 と略 | × | × | ○ | × | ○ | ◎ | × |
| Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Dāmād İbrāhīm Paşa 919 (1480/1年書写) 以下 DIP919 と略 | × | × | ○ | × | × | × | × |
| Munich, Barvarian State Library, Ms. Cod. Pers. 208/2 (16-17世紀書写) | ○ | × | × | × | × | × | × |
| London, British Library, Ms. I.O. Islamic 3524 (1671年書写) | ○ | × | × | × | × | × | × |
| Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 1364-1365 (19世紀書写) | × | × | ○ | ○ | × | × | ○ |

*◎：ファクシミリ版が付されているもの、網掛け：『集史』以外の作品の手稿本

国史」, 「ユダヤ史」, 「フランク史」, 「インド史」の各章から構成されている。ロウシャン以前には、「ガズナ朝史」以降の各章の部分校訂, あるいは手稿本ファクシミリ版が刊行されてきた。ここでは, それらの成果とそこで参照された『集史』手稿本を, 編者ごとに分けて紹介したい。

①ヤーン K. Jahn

第2巻「世界史」の「オグズ史」以降の各章について, 以下の研究書・翻訳書を刊行。参照されている手稿本は, 表1のとおり。

- K. Jahn, *Histoire universelle de Rašīd al-Dīn Faḍl-Allāh Abul-Khair: Histoire des Francs*, Leiden, 1951. (「フランク史」第2章3節の校訂・フランス語訳)
- K. Jahn, *Rašīd al-Dīn's History of India: Collected Essays with Facsimiles and Indices*, The Hague, 1965. (「インド史」に関する論集)
- K. Jahn, *Die Geschichte der Oğuzen des Rašīd ad-Dīn*, Wien, 1969. (「オグズ史」ドイツ語訳)
- K. Jahn, *Die Chinageschichte des Rašīd ad-Dīn*, Wien, 1971. (「中国史」ドイツ語訳)
- K. Jahn, *Die Geschichte der Kinder Israels des Rašīd ad-Dīn*, Wien, 1973. (「ユダヤ史」ドイツ語訳)
- K. Jahn, *Die Frankengeschichte des Rašīd ad-Dīn*, Wien, 1977. (「フランク史」ドイツ語訳)
- K. Jahn, *Die Indiangeschichte des Rašīd ad-Dīn*, Wien, 1980. (「インド史」ドイツ語訳)

②アテシュ A. Ateş

以下の「ガズナ朝史」と「セルジューク朝史」の校訂を刊行。参照されている手稿本は, 表1に掲載されている H1653, H1654, A2935 の3点。

- Rašīd al-Dīn Faḍlallāh, *Cāmi' al-Tawāriḥ: Sultan Mahmud ve Devrinin Tarihi*, ed. by A. Ateş, 1957.
- Rašīd al-Dīn Faḍlallāh, *Cāmi' al-Tawāriḥ: Selçuklular Tarihi*, ed. by A. Ateş, Ankara, 1960.

③ダビール・スィヤーギー M. Dabir-Siyāqi

既存の校訂に全面的に依拠し, 「イスマール派史」, 「ガズナ朝史」, 「フランク史」の校訂を刊行。手稿本は参照されていない⁷⁾。

- Khawja Rašīd al-Dīn Faḍl Allāh Wazīr Hamadāni, *Faḣlī az Jāmi' al-Tawāriḥ: Sargudhasht-i*

- Hasan Šabbāh wa Jā-nishān-i Ū*, ed. by M. Dabīr-siyāqī, Tehran, 1337kh.
- b. Khwāja Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Wazīr Hamadānī, *Faṣḥī az Jāmi' al-Tawārikh*, ed. by M. Dabīr-siyāqī, Tehran, 1338kh.
- c. Khwāja Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Wazīr Hamadānī, *Tārikh-i Afranj yā Faṣḥī az Jāmi' al-Tawārikh*, ed. by M. Dabīr-siyāqī, Tehran, 1339kh.

④ダーネシュパジューフ M. T. Dānish-pazhūh とモダッレスィー M. Mudarrisi

「イスマーイール派史」の校訂を刊行。H1653 を底本とし、その他に2点の『集史』の手稿本 (Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 2004; Tehran, University Library, Ms. Adabiyāt 76b), 2点のハーフィズ・アブルー Ḥāfiẓ-i Abrū 著『選集 *Majmū'a*』の手稿本 (DIP 919; Tehran, Malek Library, Ms. 4163), 1点のカーシャーニー Abū al-Qāsim Qāshānī 著『歴史精髓 *Zubdat al-Tawārikh*』の手稿本 (Tehran, University Library, Ms. 5210) が参照されている。

- a. Khwāja Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārikh: Qismat-i Ismā'iliyān wa Fāṭimiyān wa Nizāriyān wa Dā'iyyān wa Raḥiqān*, ed. by M. T. Dānish-pazhūh & M. Mudarrisi, Tehran, 2536sh. (*Majma' al-Tawārikh al-Sulṭāniya: Qismat-i Khulafā-yi 'Alawiya-yi Maghrib wa Miṣr wa Nizāriyān wa Raḥiqān az Tārikh-i Ḥāfiẓ-i Abrū*, ed. by M. Mudarrisi Zanjānī, Tehran, 1364kh に再録)

⑤ブレア Sh. Blair

第2巻「世界史」の挿絵付アラビア語手稿本として有名な KH727 のファクシミリ版を刊行。内容は「イスラーム史」の一部、「中国史」、「インド史」、「ユダヤ史」。

- a. Sh. S. Blair, *A Compendium of Chronicles: Rashid al-Din's Illustrated History of the World*, London, 1995.

⑥王一丹

「中国史」の校訂を刊行。底本はテヘラン手稿本 (Golestān Palace Library, Ms. 2256, 以下 G2256 と略) と BL7628 で、その他に、H1653, KH727, 『バナーカティー史 *Tārikh-i Banākātī*』の手稿本が参照されている。

- a. Khwāja Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh, *Tārikh-i Chīn az Jāmi' al-Tawārikh*, ed. by Ī. Wāng, Tehran, 1379kh.

このように、ロウシャン以前には、複数の研究者が各々の研究関心にしたがい、部分校訂を刊行してきたが、それは第2巻「世界史」全体を俯瞰したものではなく、「イスラーム前史」、「イスラーム史」、「ホラズムシャー朝史」、「サルグル朝史」の各章は未刊行のままであった。また、校訂において参照される手稿本も研究者によって様々で、現存する手稿本を網羅的に検討するような文献学的研究が行われることはなかった。このような中、ロウシャンによる校訂作業が始められたのである。

7) 「イスマーイール派史」は、イワノフ V. Ivanov による、パリ手稿本 (National Library, Ms. Suppl. persan 2004), ラホール手稿本 (Punjab University, 書架番号不明, 1223/1808/9 年書写), テヘラン手稿本 (National Library, 書架番号不明) に基づいた未刊行の校訂に、「ガズナ朝史」はアテシュの校訂② a に、「フランク史」はヤーンの校訂① a に全面的に依拠している。

表2 ロウシャンが参照したと主張している手稿本一覧

| | H1654 | H1653 | A2935 | DIP919 | G2256 | その他 |
|------------|-------|-------|-------|------------|-------|-------------|
| イラン・イスラーム史 | ◎? | ◎ | ○ | ○ | ○ | H1654 は未使用? |
| ガズナ朝史 | ◎? | ○ | ○ | ○ | × | H1654 は未使用? |
| セルジューク朝史 | ◎? | ○ | ○ | ○ | × | H1654 は未使用? |
| ホラズムシャー朝史 | × | ◎ | ○ | ○ | × | |
| サルグル朝史 | | ◎ | ○ | ○ | | |
| イスマール派史 | | ◎ | ○ | ○ | | |
| オグズ史 | × | ◎ | ○ | ○ (BK282?) | × | |
| 中国史 | × | ◎ | ○ | ○ | × | |
| ユダヤ史 | ◎ | | ○ | ○ | × | |
| フランク史 | ◎ | ○ | ○ | ○ | × | |
| インド史 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

*◎: 底本, ◎?: 底本とされるが未使用の疑い有り, ○: 対校本, ×: 未使用, 斜線: 章の欠落

3. ロウシャンによる第2巻「世界史」の校訂本

ロウシャンによる第2巻「世界史」の校訂本は、各章ごとに、次の11タイトル(全13冊)に分けられて刊行された。

- a. 「イラン・イスラーム史」⁸⁾: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Īrān wa Islām)*, ed. by M. Rawshan, 3 vols., Tehran, 1392kh.
- b. 「ガズナ朝史」: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Sāmāniyān wa Buwayhiyān wa Ghaznawiyān)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1386kh.
- c. 「セルジューク朝史」: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Āl-i Salchūq)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1386kh.
- d. 「ホラズムシャー朝史」: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Salāṭīn-i Khwārazm)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1389kh.
- e. 「サルグル朝史」: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Salghuriyān-i Fārs)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1389kh.
- f. 「イスマール派史」: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Ismā'iliyān)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1387kh.
- g. 「オグズ史」: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Ughūz)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1384kh.
- h. 「中国史」: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Aqwām-i Pādshāhān-i Khatāy)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1385kh.
- i. 「ユダヤ史」: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Banī Isrā'īl)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1386kh.
- j. 「フランク史」: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Afranj, Pāpān wa Qayāsira)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1384kh.
- k. 「インド史」: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh (Tārīkh-i Hind wa Sind wa Kashmīr)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1384kh.

8) ロウシャンによる章題「イラン・イスラーム史」の「イラン史」の部分は「イスラーム前史」にあたる章を指しているものと思われるが、その中では、古代イラン史だけではなく、アダムに始まる預言者の歴史も扱われている。

表2はロウシャンが参照したと主張している手稿本の一覧である。概ね、①底本を1314年書写のH1653あるいは1317年書写のH1654とし、②対校本を15世紀前半書写のA2935と1480/1年書写のDIP919とするのが、彼の校訂作業の方針だったようである。底本の選定理由は2つの手稿本の書写年代の古さにあったようで、各校訂本の校訂者序では、必ずと言ってよいほどその書写年代への言及が見られる（例えば、Rawshan 1385kh: xiv-xv）。これら2つの手稿本を併用する際にはH1654を底本とし、H1654を参照しない場合には、H1653を底本としている。ただし、後者の場合にH1654を参照しない理由は示されていない。H1654を参照するか否かについては、状況証拠から推測するに、ロウシャンはH1654全体の複写を入手していたわけではなく、ヤーンのドイツ語部分訳に掲載される手稿本ファクシミリを参照していたことがその原因になっていると思われる。H1654を底本としていない「オグズ史」と「中国史」の各章については、H1654の手稿本ファクシミリはヤーンの部分訳には掲載されていない一方で、H1654を底本としている「ユダヤ史」、「フランク史」、「インド史」については、H1654の手稿本ファクシミリが掲載されている。ロウシャン刊本にはH1654の画像の一部が掲載されているが、対照してみると、これらは全てヤーンの手稿本ファクシミリおよびアテシュ刊本に掲載された画像の転載であることが分かる⁹⁾。

さらに、底本がH1654とされる部分校訂の中にも、実際にH1654を参照しているのかについて疑念を抱かざるをえないものもある。一例を挙げると、「ガズナ朝史」の部分校訂の最初の1頁(JTGR: 5)と、底本とされるH1654の該当箇所(H1654: 169b)のテキストを対照してみると、8行目 *al-i Būya* の前にある *aḥwāl* という語句、11行目 *ḥikāyatī* の前にある *az* という語句はH1654には存在しないことが明らかになる。つまり、これらは底本H1654のテキストに補われた語句だということになる。それにもかかわらず、そのことは校訂註では明示されておらず(JTGR: 183)、*aḥwāl* と *az* という語句が底本H1654に存在しているかの如くテキストが再構成されている。実は、これらの語句は、先行する「ガズナ朝史」アテシュ校訂で補われたものであり、アテシュ校訂の註では、これらの語句はH1654には存在していない旨が示されている(JTGA: 1)。ロウシャンによる「中国史」の校訂を批判的に検討した矢島洋一は、ロウシャン刊本について「校訂作業においては必ずしも直接写本からテキストを構築しておらず、王刊本のテキストに引きずられているものと思われる」と評価したが(矢島2008: 276)、「ガズナ朝史」の校訂においても、先行する刊本のテキストが一言の断りもなしに反映されているという全く同じ傾向が確認できる。ロウシャン刊本には、底本とした手稿本における頁の切れ目とその頁数が示されているが、これは底本とされるH1654ではなく、H1653の頁の切れ目と一致し、ここでも底本であるはずのH1654が使用された痕跡を確認することができない。また、これと全く同じ傾向が、既にアテシュによる校訂が存在する「セルジューク朝史」の校訂においても見られる。

以上から、ロウシャンはH1654の全体の複写を入手しておらず、H1654よりもH1653を中心に校訂作業を進めていたことは、ほぼ間違いないと考えられる。もっとも彼は、書写年代のより古い手稿本だと評価されるH1653を参照してさえいれば問題はないと考えていたのかもしれない。しかし、H1654の全体の内容を把握しておらず、H1653のテキストと対照する

9) ロウシャンは、「ユダヤ史」の部分校訂において画像を転載する際に、H1653の画像（「中国史」の冒頭と末尾）を誤ってH1654のものとして紹介しており（Rawshan 1386kh: lii-liii）、このことも、彼がH1654全体の複写を入手しておらず、その全体の内容を把握していなかった可能性を示唆している。

作業を行わなかったために、最後の部分校訂「イラン・イスラーム史」に、大きな問題を内在させてしまうこととなった。

Ⅲ. 『集史』第2巻「世界史」「イラン・イスラーム史」のロウシャン校訂本

1. 底本の選定における問題点

ロウシャンは、「イラン・イスラーム史」の校訂の底本 *nuskha-yi asās* は H1653 と H1654 だと断言している (Rawshan 1392kh: xxi)。校訂作業においてこの2つの手稿本を参照する姿勢はこれまでと変わらないが、異なる点は、片方だけではなく両方の手稿本が底本とされている点である (ただし、両手稿本をどのように利用するのかについては言及されていない)。ところが、校訂テキストとこれらの手稿本を対照してみると、テキストの内容、および校訂テキストに示されている手稿本の頁の切れ目とその頁数は H1653 のものと完全に一致する。その一方で、H1654 の頁の切れ目に相当する校訂本の頁表示は確認できない。また、校訂本に掲載されている底本の画像も H1654 ではなく H1653 のものである (Rawshan 1392kh: xxix-xli)。このように H1654 を参照しているとしながら、実際には参照していない (ように見える) 姿勢は、これ以前の部分校訂においても共通している。もっともこれまでの校訂作業において、H1653 を底本とすることに大きな問題はなかった。しかし、最後に刊行された部分校訂「イラン・イスラーム史」の底本を H1653 としたことは、『集史』の校訂本として大きな問題を内在させることとなった。ロウシャンは最後まで気付かなかったようだが、H1653 は厳密に言えば『集史』の手稿本ではないのである。

H1653 の章構成は表3に示した通りである。この章構成は一見『集史』第2巻「世界史」の章構成のように見えるが、その内容は大きく異なっている。H1653 の章構成の中で、表3で網掛けをした各章は、1314年に書写された『集史』の古いテキストである。この古いテキストからなる手稿本は、およそ半分の頁が欠落した状態で、ティムール朝3代君主シャー・ルフ (在位 1409-47) の宮廷に伝わっていた。シャー・ルフが宮廷史家ハーフィズ・アブルーにこの『集史』を修復するように命じたところ、ハーフィズ・アブルーは、『集史』のテキストをただ復元するのではなく、当時編纂作業を進めていた『歴史集成 *Majma' al-Tawārikh*』の記事から補い、より優れた歴史書に改訂することを進言した。その結果、この作品のために書き下ろされた「序文・目次」(1b-6a)、『歴史集成』第1巻を修正した内容の第1部「イスラーム前史」(6b-148a)、その後の欠落箇所については復元された『集史』(ただし少し手が加えられている)のテキストが書き加えられた新しい手稿本が誕生した。このように、H1653 は『集史』の古い手稿本を修復する過程で成立したものではあるが、その内容 (特に第1部) は『集史』とは異なっている。さらに、この H1653 から写された手稿本が少なくとも18点現存していることから、筆者はこの作品を『改訂版集史』と呼び、独立したハーフィズ・アブルーの著作と見なすべきだと考えている (大塚 2015)。つまり、ロウシャンが、「イラン・イスラーム史」(第1巻「イスラーム前史」、第2巻「イスラーム史」、第3巻「校訂註・索引」) を校訂する際に底本とした H1653 の「イスラーム前史」に相当するテキストは、ハーフィズ・アブルーの『歴史集成』第1巻の記事から補われた箇所だったことになる。

ロウシャンが底本としたのは、『改訂版集史』の手稿本 H1653 であったため、そのテキストの中には、必然的に、『集史』のテキストとしては有りえないような記述が数多く存在している。例えば、H1653 の序文には、ラシードの名前ではなく、『改訂版集史』の著者であるハーフィズ・

表3 H1653の章構成

| 内容 | 頁数 | 備考 |
|-------------|-----------|-------------|
| 序文・目次 | 1b-6a | 1424/5年に加筆 |
| 第1部：イスラーム前史 | 6b-148a | 1424/5年に加筆 |
| 第2部：イスラーム史 | 149a-163b | 1424/5年に加筆 |
| | 164a-219b | 『集史』（1314年） |
| | 220a-226b | 1424/5年に加筆 |
| | 227a-266b | 『集史』（1314年） |
| ガズナ朝史 | 267b-302a | 『集史』（1314年） |
| セルジューク朝史 | 302b-328a | 『集史』（1314年） |
| ホラズムシャー朝史 | 329b-338b | 『集史』（1314年） |
| サルグル朝史 | 339a-341b | 『集史』（1314年） |
| イスマーイール派史 | 342b | 1424/5年に加筆 |
| | 343a-375a | 『集史』（1314年） |
| オグズ史 | 375b-391a | 『集史』（1314年） |
| 中国史 | 391b-410a | 1424/5年に加筆 |
| フランク史 | 411a-421b | 1424/5年に加筆 |
| インド史 | 422b-435b | 1424/5年に加筆 |

* 1314年に書写された『集史』のテキストに網掛けをした（頁数はAteş 1999: 24による）

アブルーと献呈対象者であるシャー・ルフの名前が記されている。この部分に関して、ロウシャンは、ハーフィズ・アブルーは『集史』のテキストの剽窃を行い、自らのものとした」と（JTII, Vol. 3: 1531）¹⁰、『集史』のテキストにハーフィズ・アブルーが加筆した箇所だと評価している。そして、校訂テキストでは、加筆箇所だと判断したH1653の第2葉裏面5行目から第3葉裏面4行目にかけて、実に2頁分の分量にも及ぶ文章を削除し、その代わりに省略記号（4つの黒い点）を置いている（JTII, Vol. 1: 10）。ただし、『改訂版集史』の第1部は、『歴史集成』に全面的に依拠した内容であるため、序文の微修正だけでは、テキスト中に生じてくる矛盾点を完全には解消し切れていない。例えば、『歴史集成』編纂の際に典拠とされた文献の1つが『集史』であったため、本文中には「『集史』には以下のように書かれている」という記事が見られる。この記事がそのまま校訂本において採用されているため、『集史』の校訂テキストの中に、『集史』を典拠とする引用記事が確認できるという奇妙な事態が生じている（JTII, Vol. 1: 514, 556, 755）。以上から、ロウシャンによる「イラン・イスラーム史」の校訂は、『集史』第2巻「世界史」の校訂本にはなりえないことは明らかであろう。では、これが『改訂版集史』の校訂本として評価できるかといえば、上述の序文における文章の削除のように、校訂者がその内容を恣意的に改竄しているために、そのように評価することもできないのである。

また、ロウシャンは底本H1653の手稿本を実見しておらず、その影印本を参照したと思われるが、その影印本にも問題があった。マイクロフィルムを紙焼きする過程、あるいは製本の過程で、影印本の8a頁目が欠落してしまっている¹¹。そのため、校訂テキストにおいても、手稿本1頁分の内容（「イブの誕生」の末尾の記事と「アダムとイブの失楽園」の記事）が丸

10) 校訂註では、ここで省略されているハーフィズ・アブルーの序文が紹介されているが、なぜか、ここで紹介されている序文のテキストは、底本であるH1653の内容ではなく、『選集』の内容になっている（DIP919: 3b-4a）。

11) ロウシャンはテヘランの人文科学研究所に所蔵されるH1653の影印本を使用しているが（Rawshan 1385kh: xiv-xv）、筆者が同研究所でこの影印本を確認したところ、同様の脱落があった。

ごと欠落している (JTII, Vol. 1: 40 の 2 行目と 3 行目の間)。ロウシャンはこのテキストの欠落に気付かなかったようだが、本来は、この欠落部分については、別に複写を取り寄せて補うか、最低限、内容が飛んでいることについて一言説明すべきであったらう。

2. 対校本の選定における問題点

ロウシャンによる校訂「イラン・イスラーム史」の第 3 巻は「校訂註」と「索引」の 2 つの部分から構成されており、前者が第 3 巻の頁数に占める割合は実に半分以上にも及ぶ。校訂註の中で、対校本との異同を示すという手続きは校訂には必要不可欠なもので、一見、ロウシャンの校訂作業は学術的な手続きをふまえたものであるかのような印象を受ける。しかし、この対校本の選定に関して、大きな問題が確認できる。ロウシャンが対校本として参照しているのは、これまでの校訂作業においても対校本として使用されてきた、ハーフィズ・アブルー著『選集』の手稿本 DIP919 である (Rawshan 1392kh: xx)。『選集』には、『集史』第 2 巻「世界史」の「ガズナ朝史」以降の各章がそのまま採録されているために、これまでの「ガズナ朝史」以降を対象とする校訂作業において DIP919 を参照することには問題はなかった (ただし、『選集』を参照するのならば、シャー・ルフのために書写されたより古い手稿本 BK282 も参照すべきであろう)。しかし、『選集』の「イラン・イスラーム史」に相当する部分は、『集史』第 2 巻「世界史」ではなく、『タバリー史翻訳 *Tarjuma-yi Tārikh-i Muhammad b. Jarir al-Ṭabari*』および『タバリー史続編 *Dhayl-i Tārikh-i Ṭabari*』のテキストになっている (DIP: 11b-328b, 329b-348a)。ロウシャンは『集史』とは内容の異なる『改訂版集史』を底本として選んだだけでなく、対校本に選んだのもまた、『集史』とは異なる作品の手稿本だったのである。

底本 (『改訂版集史』) と対校本 (『選集』) が異なる作品の手稿本である以上、校訂作業においてテキストの異同を確認しようにも、文章のみならず章構成さえも大きく異なっているために比較は困難である。そのため、必然的に、校訂註では「不一致」と記し、全く異同を示さないか (例えば, JTII, Vol. 3: 1547), 『タバリー史翻訳』のテキストが異同として延々と翻刻されることになる¹²⁾。通常の校訂註は、底本と対校本の語句レベルの異同が議論される箇所であるが、ここでは細かい異同が議論されるのではなく、『改訂版集史』と『タバリー史翻訳』それぞれのテキストが翻刻されているだけにすぎない。もちろん、両作品を比較することに学術的な意義が見出せないわけではないが、『集史』の校訂テキストを作成する際に行う作業としては的外れのものだと言わざるをえないだろう。

ロウシャン刊本において、DIP919 以外に対校本として参照されているのは、G2256 である¹³⁾。

- 12) 一例を挙げると、校訂註 1559 頁 14-20 行目にある、『パフラーーム・ムアイヤドの書 *Nāma-yi Bahrām al-Mu'ayyad*』からの引用記事 (JTII, Vol. 3: 1559) は、『タバリー史翻訳』校訂本の第 1 巻 87 頁 1-6 行目にある文章と、語句レベルの異同を除き一致する (TNT, Vol. 1: 87)。ロウシャンは『タバリー史翻訳』の校訂者であるにもかかわらず、『選集』のこの部分の記事が『タバリー史翻訳』と同じ内容であることにすら言及していない。『集史』の「イラン・イスラーム史」に対する評価が『タバリー史翻訳』のコピーにすぎないというものであるためか (Rawshan 1392kh: xxi), その内容が酷似している点については、深く検討しなかったようである。
- 13) 校訂者序では、『集史』の手稿本の中からは A2935 が対校本として言及されているが (Rawshan 1392kh: xx), 校訂註では A2935 との異同は示されておらず、どのように参照されたのかは定かではない。一方、校訂註では、校訂者序で紹介されていない「ゴレスタン宮殿手稿本 *nuskhā-yi Kākh-i Gulistān*」への言及が見られる。この手稿本の特徴は、ロウシャンが「インド史」を校訂する際に参照した『集史』の手稿本 G2256 に一致する。これ以外に、テヘラン大学所蔵の『歴史精髄 *ẓubdat al-Tawārikh*』の手稿本との異同が示されているが (JTII, Vol. 3: 1696-1698), その書誌情報は明示されていない。

この手稿本こそが、本来、ロウシャンが参照すべき『集史』第2巻「世界史」の手稿本であった。このG2256については、全く異なる序文を持つ「珍しいヴァリエント」の手稿本の1つとして紹介され、校訂註ではその翻刻が示されている（JTII, Vol. 3: 1525-1526）。ロウシャンが底本H1653を最初から最後までG2256と対照していれば、H1653が『集史』の手稿本ではない事実に気付いたかもしれない。しかし、G2256との異同には、僅か数頁分の紙幅しか割かれていない（JTII, Vol. 3: 1553-1556, 1559-1561, 1562, 1564）。

3. 第2巻「世界史」の手稿本として利用可能な箇所

ロウシャンによる「イラン・イスラーム史」の校訂は、底本および対校本の選定を誤ったものであるため、これを『集史』の校訂本であると評価することはできない。ただし、ロウシャン刊本の第2巻「イスラーム史」は、『集史』第2巻「世界史」の校訂本としても利用可能である。というのも、H1653の「イスラーム史」の大部分は、1314年に書写された『集史』の古いテキストが保存されている箇所だからである（H1653: 164a-219b, 227a-266b）。「イスラーム史」の欠落箇所についても、ハーフィズ・アブルーが『集史』のテキストに基づき復元した箇所だと考えられるため（H1653: 149a-163b, 220a-226b）、この部分も書写年は1424/5年になるが、『集史』のテキストであると評価できよう。

一方、校訂註の方では、「イスラーム史」以降もDIP919に採録される『タバリー史翻訳』との異同が示され続けている。異なる作品のテキストを翻刻し異同を示していくという迂遠な作業は「ウマイヤ朝史」まで続くが、「アッバース朝史」以降は簡略化されている。これ以降は、文章を翻刻するのではなく、表の形で章題の異同のみが示されるようになる。校訂註が本来のあるべき姿になるのは、DIP919の『タバリー史翻訳』に続く『タバリー史続編』の部分を対校本とするようになってからである。『タバリー史続編』は、『集史』におけるアッバース朝18代カリフ、ムクタディル（在位908-32）以降の記事からの抜粋であるため、内容は『集史』そのものである。もちろん、これを対校本として参照するのが適当であるかについては議論を要するところだが、『集史』の内容に相当するテキストを参照しているという点では、正しい作業であると言えよう。そのために、これ以降、語句レベルで異同を示すことが可能となり、校訂註に割かれる紙幅は激減している（JTII, Vol. 3: 1905-1914）。

4. 校訂テキストと手稿本の対応関係

ロウシャンは、校訂者序において校訂本作成の手順を明示していないため、校訂テキストの中には解釈に苦しむ箇所も幾つか見られる。その中の1つが、校訂本で示されている手稿本の頁表示である。校訂テキストと手稿本を対照する時に、重要な手掛かりとなるのは、校訂テキストの中に示された手稿本の頁の切れ目と頁数である。しかし、ロウシャンは、校訂作業中、手稿本の複写がばらばらになってしまい、そのために校訂テキスト中に混乱が見られるであろうことを弁解しているように（Rawshan 1392kh: xx）、この校訂本における頁表示には誤植をこえた混乱が見られ、一読しただけでは、それが何を指すものなのかを理解することは難しい。これについて、筆者は、各手稿本と対照していく中で、この頁表示が何を意図したものであるのかを突き止めることに成功した。そこで、校訂者に代わり、手稿本との対照が容易にできるように、この頁表示が意味するものを説明したい。

「イラン・イスラーム史」第1巻は「イスラーム前史」を扱うが、その中に記載されている手稿本の頁数の切れ目は、いずれも底本H1653のものと一致する。校訂テキスト中の頁数は、

「3」に始まり「95」まで1刻みで増えていくが、「96」と続くはずの所に「48」という数字が置かれ (JTII, Vol. 1: 297), 以降, 「49, 49, 50, 50, 51, 51……」と今度は同じ頁数を2つずつ刻みながら頁を数えていく。一部例外は見られるものの, 基本的にこの方針は維持され, 最後に「149」という頁数を刻んで第1巻は終了する。

「イラン・イスラーム史」の第2巻は「イスラーム史」を扱うが, ここでは, 第1巻における頁表示の方針は踏襲されていない。「59b」から始まり (JTII, Vol. 2: 924), それから「60a, 61a, 61b, 62a, 62b……」と頁の表裏をabで示しながら頁数を刻んでいく。ただし, この頁表示が一致するのは, 底本 H1653 ではなく, A2935 である。A2935 というのは, 校訂者序で対校本として紹介されているのにもかかわらず, 校訂註では言及されていない手稿本である (註13 参照)。この頁表示が, 筆者が確認できた A2935 を参照した唯一の痕跡である。「80a」まではこの方針で頁数が刻まれていくが (JTII, Vol. 2: 1012), 続く「81b」と「82a」という頁数の切れ目は, A2935 のものではなく, H1653 のものと一致する。その後続くのは, 「24」という頁数であるが (JTII, Vol. 2: 1026), こちらも, H1653 のものだと考えられる。以降, 「25, 28, 29, 30……」と不規則に頁数を刻んでいくが, これらの頁表示は H1653 のもので, A2935 の頁表示はしばらく確認できなくなる。A2935 の頁表示は「90a」という頁数から再び確認できるようになり (JTII, Vol. 2: 1049), これ以降は, H1653 と A2935 の頁の切れ目が併記されていく。若干の例外もあるが, 第2巻に見られる頁表示のうち, ab が付された頁数が A2935 のもの, ab が付されず1頁ずつ刻んでいく頁数が H1653 のものと理解しておけば, ほぼ間違いはないだろう。

IV. 『集史』第2巻「世界史」校訂本作成のための指針

以上, 本稿では, 『集史』第2巻「世界史」の校訂本作成にかかわるこれまでの研究を回顧し, その最後の一冊に位置づけられる, ロウシャンによる部分校訂『集史 (イラン・イスラーム史)』について, その校訂の質を評価する以前の問題として, 校訂に使用された底本および対校本に問題があった点を明らかにしてきた。

第2巻「世界史」のほぼ完全なテキストを保存している現存最古のペルシア語手稿本は, 1317年に書写された H1654 である。書写年の古さだけでは底本を決定する決め手には必ずしもならないものの, H1654 は校訂作業において検討しなければならない手稿本であることは間違いはないだろう。しかし, ロウシャンはこの手稿本のテキスト全体を入手していなかった可能性が高く, 部分校訂『集史 (イラン・イスラーム史)』では全く参照されていない。これに対して, ロウシャンが一連の部分校訂を作成する際に使用し続けてきた H1653 と DIP919 は, いずれもティムール朝時代のハーフィズ・アブルーの作品の手稿本である。これらの作品の「イスラーム前史」の部分は, 『集史』のテキストとは異なるため, これらに依拠して作成された校訂本の1巻目「イスラーム前史」のテキストを, 『集史』の校訂本と評価することはできない。一方, 校訂本の2巻目「イスラーム史」の部分は, 底本とした H1653 の大部分が『集史』のテキストを保存している箇所であるため, 『集史』の校訂本としても評価できる。ただし, 校訂本3巻目の校訂註に関しては, 『集史』の丸写しである『タバリー史統編』との異同を示した約10頁分以外は, 『集史』の校訂註としては不適當なものである。このように, 『集史 (イラン・イスラーム史)』全3巻のうち, およそ3分の2の内容が誤った底本と対校本に基づく作業であるため, この校訂作業は全面的にやり直す必要があると考えられる。

このような校訂本が出版された原因としては、『集史』第2巻「世界史」の「イスラーム前史」や「イスラーム史」の各章に重要性を見出してこなかったこれまでの研究の潮流、また、その中で、ラシード・アッディーンとハーフィズ・アブラーの作品がしばしば混同されてきたことなどが指摘できる。『集史』現存手稿本目録として、既に白岩 2000 が刊行されているが、その中でも、『集史』ではない作品の手稿本が紹介されていたり、既存の目録に取り上げられていない手稿本は紹介されていないなどの問題が見られた。校訂本を作成するためには、世界中の図書館に所蔵されている手稿本の情報を収集することは必要不可欠な作業である。そこで筆者は、今後『集史』第2巻「世界史」を一次史料として研究に使用していくために、現存する『集史』の諸手稿本とハーフィズ・アブラーの作品の諸手稿本の網羅的な調査を行い、両者を識別する基準を見出した¹⁴⁾。その基準に基づき、白岩 2000 を発展させる形で手稿本を再整理した結果が、稿末に示した表4「『集史』現存手稿本目録」である。筆者は、白岩 2000 では紹介されていない『集史』の手稿本 11 点を発見し、最低でも 70 点の手稿本の存在を確認している。その内訳は、①第1巻「モンゴル史」38点、②第2巻「世界史」17点、③第2巻「世界史」・第1巻「モンゴル史」合冊手稿本 10点、④第2巻「世界史」の手稿本かハーフィズ・アブラー『改訂版集史』の手稿本か判断できない手稿本 5点である（これに加えて、3点の現在所蔵先不明の手稿本がある）。

表4における手稿本の書写年代に鑑みれば、既存の『集史』第2巻「世界史」の校訂本の中で、最も信頼できそうなものは、H1653の中に保存されている1314年に書写された『集史』の古いテキストの部分、1317年に書写されたH1654、そして、ティムール朝4代君主ウルク・ベク（在位1447-49）に献呈されたA2935（15世紀前半書写）という3つの古い手稿本を参照したアテシュによる「ガズナ朝史」と「セルジューク朝史」の校訂である。ただし、これ以外にも、15世紀に書写された第2巻「世界史」を含む手稿本が残されている点には注意しなければならない（St. Petersburg, National Library, Ms. PNS46=1407年書写；London, British Library, Ms. Add. 7628=1433年以前書写；Tehran, University Library, Ms. 8791=15世紀書写）。また、手稿本の校訂作業において、手稿本の古さは底本や対校本を決める1つの目安にはなるが、著者直筆本でない限り、必ずしも原テキストを保存していることを保証するものではない。結果的には、アテシュが参照した3つの古い手稿本が校訂作業の中心になる可能性は高いが、『集史』第2巻「世界史」を校訂するためには、第2巻「世界史」17点および第2巻「世界史」・第1巻「モンゴル史」合冊手稿本 10点の手稿本のテキストを検討し、手稿本の系統を明らかにした上で、底本を決定する必要があるだろう。

最後に、これらに加えて、ごく一部の校訂で参照されている、カーシャーニーの『歴史精髄』を対校本の1つとして参照できるのではないかと、という1つの可能性を提示したい。『集史』第2巻「世界史」のテキスト（特に前半部）は『歴史精髄』に全面的に依拠したものであり、「『歴史精髄』の第2章」という表題がそのまま『集史』のテキストの中に残されているほど、両者のテキストの関係は深い（大塚 2014: 40-41）。その中でも、『歴史精髄』のテヘラン手稿本（University Library, Ms. 5715）は1317年にスルターニーヤにあるラシード・アッディーン

14) 筆者は別稿において、ラシード・アッディーン著『集史』とハーフィズ・アブラー著『改訂版集史』を識別するための特徴として、①序文から第1部「イスラーム前史」までの内容が全く異なっている点、②『改訂版集史』の手稿本の中にはフマーイの治世の前後の記事が脱落している点、③『改訂版集史』の第2部「イスラーム史」の表題に『歴史精髄』という書名が存在していない点、④『改訂版集史』には「ユダヤ史」が存在していない点を指摘した（大塚 2015: 270-272）。

はないという事実を学界に周知する必要があるだろうし、その上で、科学的な校訂作業により作成された校訂本を早急に出版する必要があるだろう。本稿が、そのための一助となれば幸いである。

史 料

- A2935: Rashid al-Dīn, *Jāmi' al-Tawārikh*, Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Ahmet III 2935.
 BK282: Hāfiz-i Abrū, *Majmū'a-yi Hāfiz-i Abrū*, Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Bağdad Köşkü 282.
 BL7628: Rashid al-Dīn, *Jāmi' al-Tawārikh*, London, British Library, Ms. Add. 7628.
 DIP919: Hāfiz-i Abrū, *Majmū'a*, Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Dāmād İbrāhīm Paşa 919.
 G2256: Rashid al-Dīn, *Jāmi' al-Tawārikh*, Golestān Palace Library, Ms. 2256.
 H1653: Hāfiz-i Abrū, *Żubdat al-Tawārikh*, Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1653.
 H1654: Rashid al-Dīn, *Jāmi' al-Tawārikh*, Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1654.
 JTGA: Raşid al-Dīn Fażlallāh, *Cāmi' al-Tawārih: Sultan Mahmud ve Devrinin Tārihi*, ed. by A. Ateş, 1957.
 JTGR: Rashid al-Dīn Faḍl Allāh Hamadāni, *Jāmi' al-Tawārikh (Tārikh-i Sāmāniyān wa Buwayhiyān wa Ghaznawiyān)*, ed. by M. Rawshan, Tehran, 1386kh.
 JTI: Rashid al-Dīn Faḍl Allāh Hamadāni, *Jāmi' al-Tawārikh (Tārikh-i Īrān wa Islām)*, ed. by M. Rawshan, 3 vols., Tehran, 1392kh.
 KH727: Rashid al-Dīn, *Jāmi' al-Tawārikh*, London, Khalilī Collection, Ms. 727.
 M2294: Rashid al-Dīn, *Jāmi' al-Tawārikh*, Tehran, Majles Library, Ms. 2294.
 TNT: Bal'amī, *Tārikh-nāma-yi Ṭabari*, ed. by M. Rawshan, 5 vols., Tehran, 1380kh.
 ZT: Abū al-Qāsim Qāshāni, *Żubdat al-Tawārikh*, Tehran, Tehran University, Ms. 5715.

参 考 文 献

- 'Alī, H. et al. 1390kh. *Fihrist-i Nuskhā-hā-yi Khaṭṭi-yi Kitāb-khāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, Vol. 2, Tehran.
 Ali Khan, Sh. 1987. *A Descriptive Catalogue of the Persian Manuscripts*, Vol. 1, Tonk.
 Anwār, 'A. 1371kh. *Fihrist-i Nusakh-i Khaṭṭi-yi Kitāb-khāna-yi Millī-yi Īrān*, Vol. 4, Tehran.
 Arberry, A. J. 1952. *A Second Supplementary Hand-List of the Muḥammadan Manuscripts in the Univeristy & Colleges of Cambridge*, Cambridge.
 Āşif-Fikrat, M. 1369kh. *Fihrist-i Alifbā'ī-yi Kutub-i Khaṭṭi-yi Kitāb-khāna-yi Markazī-yi Āstān-i Quds-i Raḍawī*, Mashhad.
 Ātābāy, B. 2536sh. *Fihrist-i Tārikh, Safar-nāma, Siyāhat-nāma, Rūz-nāma wa Juḡhrāfiyā-yi Khaṭṭi-yi Kitāb-khāna-yi Saḷṭanatī*, Tehran.
 Ateş, A. 1999² (1957). "Giriş." Raşid al-Dīn Fażlallāh, *Cāmi' al-Tawārih: Sultan Mahmud ve Devrinin Tārihi* (A. Ateş ed.), Ankara, 5-29.
 Aumer, J. 1866. *Die persischen Handschriften der K. Hof- und Staatsbibliothek in Muenchen*, Munich.
 Blair, Sh. S. 1995. *A Compendium of Chronicles: Rashid al-Din's Illustrated History of the World*, London.
 Blochet, E. 1905-34. *Catalogue des manuscrits persans de la bibliothèque nationale*, 4 vols., Paris.
 Bregel, Yu. E. 1972. *Persidskaia Literatura*, Vol. 1, Moscow.
 Browne, E. G. 1908. "Suggestions for a Complete Edition of the Jami'u't-Tawarikh of Rashidu'd-Din Fadlu'llah." *Journal of the Royal Asiatic Society*: 17-37.
 Dānish-pazhūh, M. T. 1339kh. *Fihrist-i Nuskhā-hā-yi Khaṭṭi-yi Kitāb-khāna-yi Dānish-kada-yi Adabiyāt*, Tehran.
 Dānish-pazhūh, M. T. 1340kh. *Fihrist-i Nuskhā-hā-yi Khaṭṭi-yi Kitāb-khāna-yi Markazī wa Markaz-i Asnād-i Dānish-gāh-i Tīhrān*, Vol. 14, Tehran.
 Dānish-pazhūh, M. T. 1364kh. *Fihrist-i Nuskhā-hā-yi Khaṭṭi-yi Kitāb-khāna-yi Markazī wa Markaz-i Asnād-i Dānish-gāh-i Tīhrān*, Vol. 17, Tehran.
 Dorn, R. 1852. *Catalogue des manuscrits et xylographes orientaux de la bibliothèque impériale publique de St. Pétersbourg*, St. Petersburg.
 Elliot, H. M. & J. Dowson 1964 (1871). *The History of India, as Told by Its Own Historians*, Vol. 3, Allahabad.
 Ethé, H. 1889. *Catalogue of the Persian, Turkish, Hindūstāni, and Pushtū Manuscripts in the Bodleian Library*,

- Vol. 1, Oxford.
- Ethé, H. 1980² (1903-37). *Catalogue of Persian Manuscripts in the India Office Library*, 2 vols. in 1 vol., London.
- Farzāna-pūr, Gh. & M. T. Dānish-pazhūh 1342kh. “Fihrist-i Kitāb-khāna-yi Maḥmūd Farhād Mu‘tamid.” *Nashriya-yi Kitāb-khāna-yi Markaz-i Dānish-gāh-i Tih-rān* (M. T. Dānish-pazhūh & Ī. Afshār eds.), Vol. 3, Tehran, 141-276.
- Flügel, G. 1977² (1865). *Die arabischen, persischen und türkischen Handschriften der Kaiserlich-Königlichen Hofbibliothek zu Wien*, Vol. 2, Hildesheim & New York.
- Gray, B. 1954. “An Unknown Fragment of the “Jāmi‘ al-Tawārikh” in the Asiatic Society of Bengal.” *Ars Orientalis*, 1: 65-75.
- Hukk, M. A. et al. 1925. *A Descriptive Catalogue of the Arabic and Persian Manuscripts in Edinburgh University Library*, Hertford.
- Ḥusaynī, A. 1360kh. *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi ‘Umūmī-yi Ḥaḍrat-i Āyat Allāh al-‘Uzmā Najafī Mar‘ashī*, Vol. 9, Qom.
- Ḥusaynī Ishkiwarī, J. 1388kh. *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, Vol. 28, Tehran.
- Inal, S. G. 1965. *The Fourteenth-Century Miniatures of the Jāmi‘ al-Tawārikh in the Topkapı Museum in Istanbul*, *Hazine Library No. 1653*, Ph.D. Dissertation, University of Michigan.
- Ivanow, W. 1985² (1924). *Concise Descriptive Catalogue of the Persian Manuscripts in the Collection of the Asiatic Society of Bengal*, Calcutta.
- Karatay, F. E. 1961. *Topkapı Sarayı Müzesi Kütüphanesi Farsça Yazmalar Kataloğu*, Istanbul.
- Kerney, M. 1898. *Bibliotheca Lindesiana, Hand-list of Oriental Manuscripts, Arabic, Persian, Turkish*, Aberdeen.
- Khawja Piri, M. 1996. *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Fārsī-yi Kitāb-khāna-yi Raḍā-Rāmpūr*, Vol. 1, Rampur.
- Kostigov, G. I. 1973. *Persidskie i Tadjikskie Rukopisi “Novoi Serii” Gosudarstvennoi Publichnoi Biblioteki im. M. E. Saltikova-Shedrina*, Leningrad.
- Marek, J. & H. Knížková 1963. *The Jenghiz Khan Miniatures from the Court of Akbar the Great*, London.
- Melville, Ch. 2008. “JĀME‘ AL-TAWĀRIK.” in *Encyclopædia Iranica*, Vol. 14, 462a-468b.
- Miklukho-Maklai, N. D. 1975. *Opisanie Persidskikh i Tadjikskikh Rukopisei Instituta Vostokovedeniia*, Moscow.
- Morley, W. H. 1854. *A Descriptive Catalogue of the Historical Manuscripts in the Arabic and Persian Languages, Preserved in the Library of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland*, London.
- Munzawī, A. 1390kh. *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Markaz-i Dā‘irat al-Ma‘ārif-i Buzurg-i Islāmī*, Vol. 3, Tehran.
- Nafīsī, S. 1344kh. *Fihrist-i Kitāb-khāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Millī*, Vol. 6, Tehran.
- Nawshāhī, ‘A. 1984. *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Fārsī-yi Anjuman-i Taraqqī-yi Urdū, Karāchī*, Islamabad.
- Quatremère, É. 1968² (1836). *Histoire des mongols de la Perse*, Amsterdam.
- Rawshan, M. 1385kh. “Muqaddama-yi Muṣaḥḥih.” Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi‘ al-Tawārikh (Tārikh-i Aqwām-i Pādshāhān-i Khatāy)* (M. Rawshan ed.), Tehran, ix-xix.
- Rawshan, M. 1386kh. “Muqaddama-yi Muṣaḥḥih.” Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi‘ al-Tawārikh (Tārikh-i Banī Isrā‘īl)* (M. Rawshan ed.), Tehran, ix-liii.
- Rawshan, M. 1392kh. “Muqaddama-yi Muṣaḥḥih.” Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi‘ al-Tawārikh (Tārikh-i Īrān wa Islām)* (M. Rawshan ed.), Vol. 1, Tehran, xvii-xli.
- Richard, F. 1989. *Catalogue des manuscrits persans*, Vol. 1, Paris.
- Rieu, Ch. 1879-83. *Catalogue of the Persian Manuscripts in the British Museum*, 3 vols., London.
- Rieu, Ch. 1895. *Supplement to the Catalogue of the Persian Manuscripts in the British Museum*, London.
- Schmitz, B. & Z. A. Desai 2006. *Mughal and Persian Paintings and Illustrated Manuscripts in the Raza Library, Rampur*, New Delhi.
- Semenov, A. A. 1952. *Sobranie Vostochnikh Rukopisei Akademii Nauk Uzbekskoi SSR*, Vol. 1, Tashkent.
- Tauer, F. 1931. “Les manuscrits persans historiques des bibliothèques des Stamboul.” *Archiv Orientalní*, 3: 87-118.
- Ustādi, R. 1365kh. *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Masjid-i A‘zam-i Qum*, Qom.
- Yusupov, D. Yu. & R. P. Dzhalilov 1998. *Sobranie Vostochnikh Rukopisei Akademii Nauk Respubliki Uzbekistan: Istoriia*, Tashkent.
- 宇野伸浩 2011. 『『集史』第1巻「モンゴル史」の校訂テキストをめぐる諸問題』吉田順一監修『モンゴル史研究：現状と展望』, 44-64, 明石書店.
- 大塚 修 2014. 「史上初の世界史家カーシャナーニー：『集史』編纂に関する新見解』『西南アジア研究』

- 80: 25-48.
- 大塚 修 2015. 「ハーフィズ・アブラーの歴史編纂事業再考：『改訂版集史』を中心に」『東洋文化研究所紀要』168: 245-289.
- 志茂領敏 2013. 『モンゴル帝国史研究正篇：中央ユーラシア遊牧諸政権の国家構造』東京大学出版会.
- 白岩一彦 1995. 「『集史』研究の現状と課題」『日本中東学会年報』10: 179-198.
- 白岩一彦 1997. 「ラシード・ウッディーン『歴史集成』イラン国民議会図書館写本の成立年代について」『オリエント』40(2): 85-102.
- 白岩一彦 2000. 「ラシード・ウッディーン『歴史集成』現存写本目録」『参考書誌研究』53: 1-33.
- 榎屋友子 2014. 『イスラームの写本絵画』名古屋大学出版会.
- 矢島洋一 2008. 「ラシードウッディーン『中国史』近刊刊本二種」『イスラーム世界研究』2(1): 271-278.
- 原稿受理日—2015年12月25日

表4 『集史』現存手稿本目録

凡例

| | |
|-----------------------|--|
| 通し番号 (白岩 2000 での通し番号) | 所蔵都市, 所蔵図書館, 書架番号 (典拠): 書写年, 紙幅 (書写面の幅), 1 頁あたりの行数, 葉数, 写字生, 書写地, 献呈対象者, 続編の有無, 挿絵の有無, その他 |
|-----------------------|--|

* 目録に記載されていない手稿本の形状に関する情報を筆者が補った場合, その項目の下に下線を引いて明示した。

* 筆者が実際に内容を確認した手稿本については, 書架番号 (典拠) の右上に * 印をうち明示した。

* 1 つの手稿本が分散し別々に登録されている場合はそれを 1 つの手稿本として数えた。

* 2 つ以上の手稿本が製本の際に 1 つの手稿本として綴じられている場合はそれぞれ別の手稿本として数えた。

* 第 2 巻「世界史」の手稿本の中で一部分しか残っていないものについては, その章構成を○印の後に示した。

* 表中の ? 印は筆者による可能性が高いが断言できない推定を意味する。

* 白岩 2000 に掲載されている手稿本 29 (Tehran, University Library, Ms. Adabiyat 35J) と手稿本 65 (=手稿本 66 と同じ, Tehran, University Library, Ms. 5715) は『歴史精髄』の手稿本 (大塚 2014: 30), 手稿本 32 (Manchester, John Rylands Library, Ms. 406) は 1498 年以降に編纂された普遍史書の手稿本 (本稿執筆時点では作品名を特定できていない), 手稿本 45 (Lahore, Punjab University, Ms. Pe 1 55) と手稿本 54 (St. Petersburg, National Library, Ms. PNS57) は『改訂版集史』の手稿本 (大塚 2015: 278), 手稿本 59 (Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Dāmād Ibrāhīm Paşa 919) と手稿本 63 (Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Bağdad Köşkü 282) は『選集』の手稿本であるため (大塚 2015: 275), 本目録には掲載していない。

I. 『集史』第 1 巻「モンゴル史」の手稿本

| | |
|---------|--|
| 1 (1) | Tehran, Majles Libarary, Ms. 2294 (Nafisi 1344kh: 248-250)* : 14 世紀, 28×19 cm, 29 行, 98 葉 |
| 2 (17) | Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Revan Köşkü 1518 (Tauer 1931: 93)* : 717 年シャアバーン月/1317 年, 41.5×30 cm (34×23.5 cm), 29 行, 343 葉, 書写地 Baghdad, 続編有 (「オルジェイト紀」) |
| 3 (20) | Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Ayasofya 3034 (Browne 1908: 36)* : 785 年ムハッラム月 1 日/1383 年 3 月 6 日, 31.4×21.6 cm (23.5×16.3 cm), 13 行, 418 葉, 続編有 (「オルジェイト紀」), 挿絵有 (1 画), アラビア語訳 |
| 4 (16) | Tashkent, Al-Biruni Center for Oriental Manuscripts, Ms. 1620 (Semenov 1952: 21-22; Yusupov & Dzhaliilov 1998: 32-34)* : 14 世紀, 40×28 cm (34×22.4 cm), 29 行, 263 葉, 挿絵有 |
| 5 (3) | London, British Library, Ms. Add. 16688 (Rieu 1879-83, Vol. 1: 78a-79a)* : 14 世紀 (930 年ズー・アルヒッジャ月 3 日/1524 年 10 月 2 日修復), 28×20.5 cm (22×16 cm), 21 行, 293 葉, 写字生 Muḥammad b. Abi Ṭāhir b. Ḥasan, 続編有 (「オルジェイト紀」) |
| 6 (2) | Paris, National Library, Ms. Ancien fonds persan 68 (Blochet 1905-34, Vol. 1: 203; Richard 1989: 97-98)* : 14 世紀, 34×25.5 cm (27×17 cm), 27 行, 121 葉 |
| 7 (19) | Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 1561 (Blochet 1905-34, Vol. 1: 281)* : 14 世紀後半, 27×18 cm, 15 行, 125 葉 |
| 8 (70) | Rampur, Raza Library, Ms. F.1820 (Khawāja Pīrī 1996: 565; Schmitz & Desai 2006: 171-179)* : 14 世紀 (1475-90 年頃と 1590-95 年頃に修正・加筆), 45.5×32.5 cm (41.6×28 cm), 25 行, 135 葉, 挿絵有 (82 画) |
| 9 (25) | Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 1113 (Blochet 1905-34, Vol. 1: 201-202; 白岩 2000: 18-19)* : 15 世紀前半, 32×23 cm (26×20 cm), 33 行, 285 葉, 挿絵有 (109 画) |
| 10 (4) | Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 209 (Blochet 1905-34, Vol. 1: 202-203)* : 837 年ラジャブ月 4 日/1434 年 2 月 14 日, 35×26 cm, 23 行, 534 葉, 写字生 Mas'ūd b. 'Abd-Allāh, 献呈対象者 Shāh-Rukh (ティムール朝 3 代君主), 続編有 (「オルジェイト紀」, 「アブー・サイード紀」) |
| 11 (18) | Vienna, Austrian National Library, Ms. Mxt. 326 (Flügel 1977: 179-181)* : 15 世紀, 35×25 cm (25.5×17.5 cm), 27 行, 333 葉 |
| 12 (5) | Tashkent, Al-Biruni Center for Oriental Manuscripts, Ms. 2 (Semenov 1952: 23-24; Yusupov & Dzhaliilov 1998: 34-35)* : 932 年第 2 ジュマダー月/1526 年, 36.5×24 cm (25×15.2 cm), 16 行, 511 葉, 写字生 Muḥammad 'Alī b. Mawlānā Yār 'Alī, 書写地 Samarqand, 献呈対象者 Kūjkūnī Khān (シャイバーン朝 2 代君主), トルコ語訳 |
| 13 (26) | St. Petersburg, National Library, Ms. Dorn 289 (Dorn 1852: 279-282)* : 935 年第 2 ジュマダー月/1529 年, 33.5×23.5 cm (23.8×14.8 cm), 23 行, 400 葉, 書写地 Tarasht (Ray の村), 挿絵有 |
| 14 (6) | Oxford, Bodleian Library, Ms. Elliot 377/2 (Ethé 1889: 16)* : 944 年第 1 ジュマダー月 7 日/1537 年 10 月 12 日, 35.5×23 cm (24×14.7 cm), 30 行, 236 葉 (332b-567a), 写字生 Ibn Sayyidī Ahmad al-Hāfiẓ Naṣr-Allāh * 『集史』第 1 巻「モンゴル史」の前後に, 『タバリー史翻訳 Tarjuma-yi Tārikh-i Ṭabari』(1b-331a) と『清浄園 Rawḍat al-Ṣafā』第 5 巻後半部 (「アブー・サイード紀」以降) (568a-617b) が収録されている手稿本 |
| 15 (7a) | Munich, Bavarian State Library, Ms. Cod. Pers. 207/2 (Aumer 1866: 69-71)* : 952 年ズー・アルカーダ月/1546 年, 34.5×24 cm (24.4×16 cm), 19 行, 315 葉 (77a-391a), 写字生 al-Mudhahhib 'Alī al-Kātib al-Sharīf al-Shirāzi |

| | |
|-------------|--|
| 16 (8) | St. Petersburg, Institute of Oriental Manuscripts, MS. D66 (Miklukho-Maklai 1975: 46-50, 55-57)*, 984年ラジャブ月4日/1576年9月27日, 35.5×24 cm (24.5×16.5 cm), 23行, 509葉, 写字生 Mas'ūd b. 'Abd Allāh, 続編有 (「オルジェイト紀」, 「アブー・サイード紀」) |
| 17 (23) | London, British Library, Ms. Or. 2927 (Rieu 1895: 15a-15b)* : 994年ズー・アルカーダ月29日 (イラーヒー暦31年アーバーン月20日)/1586年11月11日, 33×23 cm (27.5×17 cm), 27行, 256葉 |
| 18 (27) | Tehran, Golestān Palace Library, Ms. 2254 (Ātābāy 2536sh: 88-89; Marek & Knížková 1963: 30)* : 1004年ラマダーン月27日 (イラーヒー暦41年ホルダード月5日) / 1596年5月25日, 39×29 cm (35.5×24 cm), 25行, 304葉, 挿絵有 (98画) |
| 19 (22) | Kolkata, The Asiatic Society, Ms. PSC4 (Ivanow 1985: 2; Gray 1954: 66)* : 15-16世紀, 47×32 cm (34×20 cm), 25行, 121葉, 挿絵有 (21画) |
| 20 (21) | London, British Library, Ms. I.O. Islamic 1784 (Ethé 1980, Vol. 1: 8-9)* : ラマダーン月12日 (書写年未記載) / 16世紀?, 29.5×19 cm (20.5×11.5 cm), 21行, 394葉 |
| 21 (12) | Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 1643 (Blochet 1905-34, Vol. 4: 225-227)* : 16世紀, 21×14.5 cm, 17行, 188葉 |
| 22 (9) | Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Hekîmoğlu 'Ali Paşa 703 (Tauer 1931: 99)* : 10/16世紀, 25×19.8 cm (16.2×12.5 cm), 18行, 218葉 *目録ではハーフィズ・アブルー『選集』として登録 |
| 23 (10) | Tashkent, Al-Biruni Center for Oriental Manuscripts, Ms. 1643 (Semenov 1952: 22; Yusupov & Dzhaliyov 1998: 34)* : 16世紀, 27.5×20 cm (21×14.5 cm), 19行, 34葉 |
| 24 (15, 38) | Mashhad, Āstān-e Qods Library, Ms. 4101 (Āṣif-Fikrat 1369kh: 160)* : 10/16世紀 (1300年ラジャブ月24日/1883年5月31日に Ṣani' al-Dawla の求めに応じ Muḥammad 'Ali Raḍawī が修復), 20行, 649葉, 続編有 (「オルジェイト紀」, 「アブー・サイード紀」) |
| 25 (7b) | Munich, Bavarian State Library, Ms. Cod. Pers. 207/1 (Aumer 1866: 69-71)* : 1015年第1ジューマダー月1日/1606年9月4日, 34.5×24 cm (24.4×16 cm), 19行, 68葉 (1a-68a), 写字生 Ḥabīb Allāh b. Sa'd al-Dīn Muḥammad b. Khalīl Allāh b. Sa'd al-Dīn Muḥammad al-Qāḍī al-Kāshānī |
| 26 (24) | London, British Library, Ms. Or. 2885 (Rieu 1895: 16a-16b)* : 1030年ラジャブ月28日/1621年6月12日, 33×20 cm (25.5×14 cm), 21行, 422葉, 写字生 Muḥammad Ṣādiq b. Ḥusayn Khātūnābādī, 書写地 Iṣfahān, 続編有 (「オルジェイト紀」, 「アブー・サイード紀」) |
| 27 (-) | Karachi, Anjuman Taraqqi-e Urdu Pakistan, Ms. 19F.Q.4 (Nawshāhī 1984: 188-189) : 1070年ラジャブ月11日/1660年3月23日, 354葉, 写字生 Asad Khān, 献呈対象者 Nawwāb Ruḥ Allāh Khān b. Khalīl Allāh Khān |
| 28 (14) | St. Petersburg, Institute of Oriental Manuscripts, Ms. C376 (Miklukho-Maklai 1975: 50)* : 17世紀, 24.5×14.5 cm (16.5×8.5 cm), 18行, 182葉 |
| 29 (11) | Tehran, National Library, Ms. F.1569 (Anwār 1371kh: 62-63)* : 11/17世紀, 40.5×27 cm (35.5×23 cm), 31行, 216葉 |
| 30 (-) | Tonk, Arabic and Persian Research Institute, Ms. Udaipūr 2588 (Ali Khan 1987: 85)* : 1302年ラジャブ月14日/1885年7月29日, 31×20 cm (27×13 cm), 16行, 293葉 |
| 31 (-) | Tehran, Dā'erat al-Ma'āref-e Bozorg-e Eslāmī Library, Ms. 1260 (Munzawī 1390kh: 68a-68b)* : 1307年ズー・アルヒジャッ月10日/1890年7月28日, 33.5×21 cm (20.5×12 cm), 20行, 342葉, 写字生 Shihāb al-Dīn Ḥusaynī Shirāzī, 献呈対象者 Ḥusayn 'Ali Khān, 続編有 (「オルジェイト紀」, 「アブー・サイード紀」) |
| 32 (71) | Rampur, Raza Library, Ms. F.1819 (Khawāja Piri 1996: 565)* : 19世紀?, 31×21.5 cm (23×13.5 cm), 25行, 357葉 |
| 33 (-) | Qom, Mar'ashī Najafī Library, Ms. 3586 (Ḥusaynī 1360kh: 370-371)* : 19世紀?, 33×20.5 cm (22×12 cm), 20行, 289葉 |
| 34 (-) | Tehran, Majles Library, Ms. 1108 ('Ali et al. 1390kh: 1599)* : 19世紀?, 26×16.5 cm (18×9.5 cm), 17行, 207葉, 手稿本1の写し? |
| 35 (13) | Kolkata, The Asiatic Society, Ms. PSC5 (Ivanow 1985: 3), 19-20世紀, 29.5×20 cm (22.5×12 cm), 19行, 204葉, 手稿本20の写し |
| 36 (-) | Tehran, University Library, Ms. 4683 (Dānish-pazhūh 1340kh: 3632-3633)* : 19世紀, 23×13 cm (15×8 cm), 15行, 84葉, Quatremère 1968: cxlvii-423の写し |
| 37 (-) | Tehran, National Library, Ms. 5-14677 (国立図書館 OPAC)* : 1311年エスファンド月/1933年, 22.5×17.5 cm (20×13.5 cm), 11行, 218葉, 写字生 Muḥammad Rāziyān, Quatremère 1968の写し・翻訳 |
| 38 (-) | Tehran, Golestān Palace Library, MS. 2234 (Ātābāy 2536sh: 81-83)* : 書写年不明, 47.5×33 cm, 31行, 213葉 |

*手稿本1の書写年について、白岩一彦は、この手稿本の「彼 [オルジェイト] の治世、それが永遠に続きますように」という記述の下に書かれているシヤールカト体の数字を3ヶ月 (4分の1年) と読み、その書写年代をオルジェイトの即位の3ヶ月後、すなわち、1304年10月中旬だと考えた (白岩 1997: 94-95; 白岩 2000: 10)。しかし、この数字は文字の配置と筆の色からして、明らかに後世に書き加えられたものだと考えられ、かつ、シヤールカト体の数字は「4分の1年」ではなく「13年」と読める (M2294: 5a)。すなわち、この数字はその治世が13年であったオルジェイトの死後書き加えられたもので、手稿本の成立年代との関係はない。この手稿本が最初期の手稿本であることは間違いないと思われるが、本文中に705/1305/6年という年記が確認できることから (M2294: 56a)、書写年はどんなに早くともこれ以降になるだろう。

II. 『集史』第2巻「世界史」の手稿本

| | |
|------------|---|
| 39a (48) | London, Khalili Collection, Ms. 727 (Blair 1995: 16-36)* : 714/1314/5年, 43.5×30 cm (37×25.5 cm), 35行, 60葉, 挿絵有 (100画), アラビア語訳, 元来は手稿本39bの一部 ○「イスラーム史」, 「中国史」, 「インド史」, 「ユダヤ史」 |
| 39b (49) | Edinburgh, Edinburgh University, Ms. Or. 20 (Hukk et al. 1925: 15-17)* : 714/1314/5年, 45.1×34.2 cm, 35行, 150葉, 挿絵有 (70画), アラビア語訳 ○「イスラーム前史」, 「イスラーム史」, 「ガズナ朝史」, 「セルジューク朝史」, 「ホラズムシャー朝史」 |
| 40 (51) | Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1653 (Karatay 1961: 38; Inal 1965: 41-44)* : 714年第2ジュマダー月下旬/1314年, 54.2×37.7 cm (31.1×23.2 cm), 35行, 219葉 (164a-219b, 227a-341b, 343a-391a), 写字生 al-'Abd al-Muttakā'i al-Hāfīz, 挿絵有 (68画) |
| 41 (50) | Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1654 (Karatay 1961: 393; Inal 1965: 34-35)* : 717年第1ジュマダー月3日/1317年7月14日, 55.7×32.7 cm (34.2×24.4 cm), 31行, 352葉, 挿絵有 (118画) |
| 42 (28) | Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Ahmet III 2935 (Karatay 1961: 43; Ateş 1999: 25-26)* : 9/15世紀前半, 41×26 cm (30.5×18 cm), 33行, 406葉, 写字生 Aḥmad b. Muḥammad b. Muḥammad al-Bukhārī (写字生の名が著者名が記載されるべき所 (1b) に組み込まれている), 献呈対象者 Ulugh Bayk (ティムール朝4代君主) |
| 43 (-) | Qom, Masjed-e A'zam Library, Ms. 3569 (Ustādi 1365kh: 222)* : 17-18世紀, 34×21 cm, 29行, 134葉 ○「フランク史」(1b-4b), 「ユダヤ史」(5a-5b, 123a-134b), 「イスラーム前史」(6a-18b), 「イスラーム史」(18b-103b), 「セルジューク朝史」(104a-105b, 112a-112b, 115a-120b), 「ホラズムシャー朝史」(105b-108b), 「オグズ史」(109a-111b, 121a-121b), 「ガズナ朝史」(113a-114b), 「中国史」(122a-122b) *目録ではハーフィズ・アブルー『歴史精髄』として登録 |
| 44 (33) | Manchester, John Rylands Library, Ms. 364b (Kerney 1898: 269)* : 1800年頃, 21.5×15 cm (19×11 cm), 14行, 35葉 (29b-63a) ○手稿本39a所収「インド史」のペルシア語訳? |
| 45 (-) | London, Royal Asiatic Society, Ms. Arabic 27 (Morley 1854: 11)* : 1823年5月, 31.5×23 cm (26×15.5 cm), 20行, 33葉, アラビア語訳 ○手稿本39a所収「インド史」の写しおよびペルシア語対訳? |
| 46 (34) | London, British Library, Ms. Add. 18878 (Rieu 1879-83, Vol. 1: 79a-79b)* : 1244年第1ラビー月5日/1828年9月16日, 24×16 cm (16×9.5 cm), 11行, 164葉 ○「中国史」, 「フランク史」, 「インド史」 |
| 47 (35) | London, British Library, Ms. Or. 1684 (Rieu 1879-83, Vol. 3: 882a-882b)* : 1850年頃, 32×20 cm (22×13 cm), 17行, 249葉 ○「ガズナ朝史」, 「セルジューク朝史」, 「ホラズムシャー朝史」, 「サルグル朝史」, 「イスマール派史」 |
| 48 (36) | London, British Library, Ms. Or. 1958 (Rieu 1879-83, Vol. 3: 883b)* : 1850年頃, 22.5×14 cm (18.5×10 cm), 11行, 137葉 ○目次のみ |
| 49 (37) | London, British Library, Ms. Or. 2007 (Rieu 1879-83, Vol. 3: 882b-883b)* : 1267年第2ジュマダー月19日/1851年4月21日, 27.5×22 cm (22×14 cm), 15行, 122葉, 依頼者 H. Elliot ○「インド史」関係の三小節 |
| 50 (56) | Oxford, Bodleian Library, Ms. Arab b. 1 (Bregel 1972: 311)* : 19世紀, 44×29 cm (37.5×26 cm), 35行, 10葉, 挿絵有 (15画), アラビア語訳 ○手稿本39a所収「中国史」の写し |
| 51 (42-43) | Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 1364-1365 (Blochet 1905-34, Vol. 1: 203-204)* : 19世紀後半, 26×17 cm, 17行, 336+239葉, 手稿本42の写し ○「イスマール派史」, 「オグズ史」, 「中国史」, 「インド史」, 「ガズナ朝史」, 「セルジューク朝史」, 「ホラズムシャー朝史」, 「サルグル朝史」 |
| 52 (41) | London, British Library, Ms. Or. 1786 (Rieu 1879-83, Vol. 3: 883b)* : 19世紀後半, 25.5×16 cm (16.7×10 cm), 11行, 167葉, 手稿本46と同系統 ○「中国史」, 「フランク史」, 「インド史」 |
| 53 (39) | London, British Library, MS. I.O. Islamic 3628 (Éthé 1980, Vol. 2: 1)* : 19世紀, 33.5×21 cm (28×14 cm), 15行, 323葉, 写字生 B. Morley ○手稿本60所収「インド史」の写し |
| 54 (40) | London, British Library, Ms. Or. 2062/4 (Rieu 1879-83, Vol. 3: 1057a)* : 19世紀, 25.5×17.5 cm (18.5×8.5 cm), 11行, 36葉 (24a-59a) ○「インド史」 |
| 55 (46) | Cambridge, Cambridge University, Ms. Or. 1577(11) (Arberry 1952: 62)* : 19世紀, 28×21 cm (22×14 cm), 15行, 211葉, Trustees of the Gibb Memorial Fund. 旧蔵手稿本 (Browne 1908: 36) ○「オグズ史」, 「中国史」, 「ガズナ朝史」, 「セルジューク朝史」, 「ホラズムシャー朝史」 |

III. 『集史』第2巻「世界史」・第1巻「モンゴル史」合冊手稿本

| | |
|---------|---|
| 56 (57) | St. Petersburg, National Library, Ms. PNS46 (Kostigov 1973: 61-62)* : 810年ムハッラム月中旬/1407年, 37.5×25.5 cm (30.5×18.5 cm), 33行, 459葉, 写字生 al-'Abd Ḥajjī Musāfir al-'Aṭṭār |
| 57 (58) | London, British Library, Ms. Add. 7628 (Rieu 1879-83, Vol. 1: 74a-78a)* : 1433年以前, 46×28 cm (32×19.8 cm), 33行, 728葉 |
| 58 (-) | Tehran, University Library, Ms. 8791 (Dānīsh-pazhūh 1364kh: 222)* : 15世紀, 37×24 cm (29×17 cm), 33行, 444葉 |
| 59 (67) | Tehran, Golestān Palace Library, Ms. 2256 (Ātābāy 2536sh: 84-87)* : 1074年シャウワール月末日/1664年5月25日, 49.3×32 cm, 25-28行, 613葉, 写字生 Ḥusayn b. Shaykh Mir 'Alam, 献呈対象者 Qalīj Khān b. Sārū Khān, 挿絵有 |
| 60 (62) | London, British Library, Ms. I.O. Islamic 3524 (Ethé 1980, Vol. 1: 1524-1529)* : 1082年シャアバーン月6日/1671年12月8日, 36.5×24 cm (27.5×17 cm), 25行, 599葉, 写字生 Ṭāhīr b. 'Abd al-Bāqī 'Alā'ī, 手稿本59と同系統 |
| 61 (64) | Munich, Bavarian State Library, Ms. Cod. Pers. 208/2 (Aumer 1866: 71-72)* : 16-17世紀?, 24.5×18 cm (18.5×12.5 cm), 22行, 176葉 (123b-298a), 挿絵有 ○「オグズ史」, 「中国史」, 「フランク史」, 「インド史」, 「モンゴル史」 |
| 62 (-) | Tehran, Majles Library, Ms. 8734 (Ḥusaynī Ishkiwari 1388kh: 234a-234b)* : 1245年ムハッラム月/1829年, 29.5×21 cm (24×15 cm), 行数は様々, 607葉, 手稿本59の写し? |
| 63 (69) | St. Petersburg, National Library, Ms. Khan. 62 (Bregel 1972: 309)* : 1256年シャアバーン月6日/1840年10月3日, 42×26.5 cm (32.5×16.5 cm), 33行, 477葉, 挿絵有, 手稿本59と同系統 |
| 64 (61) | St. Petersburg, National Library, Ms. PNS47 (Kostigov 1973: 62-63)* : 1268/1851/2年, 47×30 cm (34.6×20.5 cm), 28行, 607葉, 挿絵有 (100画), 依頼者 Kniaz Dolgorukii, 書写地 Tehran (ガーゴジャール朝2代君主ファトフ・アリー・シャーの図書館), 手稿本59の写し |
| 65 (60) | Tehran, National Library, Ms. F.1606 (Anwār 1371kh: 92-93)* : 13/19世紀, 46.5×29 cm (32.5×19 cm), 26行, 361葉 |

IV. 『改訂版集史』である可能性が疑われる手稿本

| | |
|---------|---|
| 66 (52) | Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 2004 (Blochet 1905-34, Vol. 4: 224-225)* : 830/1426/7年 (もしくは803年/1400/1年), 33.5×20 cm, 25行, 303葉, 写字生 Muḥammad b. Mullā Mir al-Kātib, 挿絵有 ○「イスラーム史」, 「ガズナ朝史」, 「セルジューク朝史」, 「ホラズムシャー朝史」, 「サルグル朝史」, 「イスマール派史」, 「オグズ史」, 「中国史」, 「フランク史」, 「インド史」 |
| 67 (44) | St. Petersburg, Institute of Oriental Manuscripts, Ms. C374 (Miklukho-Maklai 1975: 51)* : 16世紀, 24×16 cm (19×10.3 cm), 25行, 240葉 ○「イスラーム史」(冒頭欠), 「ガズナ朝史」, 「セルジューク朝史」, 「ホラズムシャー朝史」 |
| 68 (72) | Rampur, Raza Library, Ms. F.1821 (Khawāja Piri 1996: 565)* : 1047年ラマダーン月中旬/1631年, 32×21 cm (22×12.2 cm), 23行, 203葉, 写字生 Mu'izz al-Dīn Ḥusayn b. Muḥammad Mirak al-Ḥusaynī al-Ustādi ○「イスラーム史」, 「ガズナ朝史」, 「中国史」, 「フランク史」, 「インド史」 |
| 69 (30) | Tehran, University Library, Ms. Adabiyāt 76b (Dānīsh-pazhūh 1339kh: 144-147)* : 11/17世紀, 30.5×18 cm (24×13 cm), 25行, 304葉 ○「イスラーム史」(冒頭欠), 「ガズナ朝史」, 「セルジューク朝史」, 「ホラズムシャー朝史」, 「サルグル朝史」, 「イスマール派史」, 「オグズ史」, 「中国史」, 「フランク史」, 「インド史」 |
| 70 (31) | Tashkent, Al-Biruni Center for Oriental Manuscripts, Ms. 1 (Semenov 1952: 22-23; Yusupov & Dzhaliyov 1998: 34)* : 18世紀, 29.5×19 cm (21×12.5 cm), 19行, 370葉 ○「イスラーム史」(冒頭欠), 「ガズナ朝史」, 「セルジューク朝史」, 「ホラズムシャー朝史」, 「サルグル朝史」, 「イスマール派史」, 「オグズ史」, 「中国史」, 「フランク史」, 「インド史」 |

*これらの手稿本には「ユダヤ史」が欠落している。「ユダヤ史」の欠落は『改訂版集史』に共通する特徴ではあるが(大塚 2015: 272), 2つの作品を区別する決定的な鍵となる「序文」から「古代ペルシア史」も欠落しているため, 本稿執筆時点ではどちらの作品の手稿本とすべきか判断できていない。本稿では『集史』の手稿本として計上したが、『改訂版集史』である可能性も否定できない。

V. 現在所蔵先不明の『集史』手稿本

| | |
|---------|---|
| 71 (55) | Kolkata, Asiatic Society, Ms. 14 (Elliot & Dowson 1964: 18-21; Browne 1908: 36) : 1098/1686/7年, 30行, 291葉 ○「セルジューク朝史」, 「オグズ史」, 「中国史」, 「ユダヤ史」, 「イスラーム前史」, 「イスラーム史」, 「フランク史」, 「ガズナ朝史」, 「インド史」 |
| 72 (53) | Lucknow, Royal Library, 書架番号不明 (Elliot & Dowson 1964: 16-17) : 35行, 105葉 ○「ガズナ朝史」, 「セルジューク朝史」, 「ホラズムシャー朝史」 |
| 73 (68) | Tehran, Farhād Mu'tamid Library, Ms. 30 (Farzāna-pūr & Dānīsh-pazhūh 1342kh: 169) : 13/19世紀, 24×15 cm (14×8 cm), 12行, Farhād Mirzā 注釈・訂正 |